

■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て2023年3月20日時点集計。

■ 業務実施計画の作成

- 令和4年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載、公開した(<https://www.epo-chubu.jp/about/target>)。

■ ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

- 下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議	開催日	主な議事等
ESD/EPO 運営委員会	第1回会議	5月25日 オンライン 運営委員会設置要領について／2022年度業務実施計画について／EPO・ESD業務の事務局案について
	第2回会議	1月31日 オンライン 2022年度に実施したEPO・ESD業務について

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件					
			2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
EPO 中部ウェブサイト	http://www.epo-chubu.jp	538回	30,437	32,185	* 501,670	* 860,157	* 279,316	* 335,028
中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト	https://chubu.esdcenter.jp	216回	10,738	13,575	13,132	12,251	10,612	4,857

※ 2020年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行。(従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。)上表中の*印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

■ 収集・整理・蓄積した情報の発信

- 発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイトに掲載しており、閲覧が可能である。
(<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>) EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターの第6期リーフレットを作成した。

	記事数・計	掲載記事数				
		冒頭部	イベント関連	ツール・コンテンツ	助成金・表彰等	その他
2022年度に配信メルマガ(毎月第2火曜日発行)	290	21	121	26	105	17

■ 照会・相談対応(年間合計件数)

- 相談件数、来館数は増加していないが、地域からの講師等としての招聘、地域主体との打合せなど施設外へ出向く打合せ等(及びオンライン打合せ)の件数は増加している。

相談・支援対応の事例件数※1	照会・相談対応等の延べ件数	照会・相談対応				対話の体制の構築			照会・相談対応の延べ件数 + 対話の体制の構築件数
		来館件数 延べ件数※2	相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	メール・電話による相談(広報依頼等)延べ件数※2	地域活動への招聘	会議・セミナー等	その他打合せや地域主体との意見交換等	
40	276	76	43	33	200	62	99	437	

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数。

※2) 延べ件数: 同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数。

■ 施設・設備の維持管理(年間施設利用件数)

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による問合せ件数
262日	231日	139人	79件	200件

協働取組の促進のための業務

2022年度に主催したローカルSDGs/地域循環共生圏がテーマのイベント・会合

区分	エリア	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	実施内容等
①地域循環共生圏フォーラム	長野県諏訪市	リアル・YouTube	11月23日	会場37名 YouTube 21件	地域循環共生圏フォーラム inSUWA 「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪地域の活動団体(一社)諏訪広域脱炭素イノベーション協会と共催。 「地域ビジョンづくり」ワークショップを実施。
②ローカルSDGs/地域循環共生圏ワーキング	(中部)	zoom	12月15日	17件	ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー「SDGs17ゴールの紐づけの先へあなた・地域・社会の変容に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> 自治体職員向けセミナーとして企画。 SDGsチェックリストを活用したSDGsの我がごと化ワークショップを実施。
③協働コーディネーターと連携した実践活動	長野県長野市芋井地区	リアル	11月5日	午前25名 午後16名	信州ローカルSDGs勉強会 災害に強い地域づくりワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーター山室氏との連携企画。
		リアル	2月26日	15名	こどもの自然体験、野外保育・ESD教育×国立公園の資源活用	<ul style="list-style-type: none"> 地区の豊かな自然環境、環境学習施設を活かした子どもたちの自然体験や探究活動のあり方等を考える勉強会を実施。
④環境白書を読む会	(中部)	zoom	9月13日	71件	なごや環境大学オンラインセミナー 環境白書からSDGs実践へ2022	<ul style="list-style-type: none"> なごや環境大学に協力して共催。 EPO中部が司会。



①地域循環共生圏フォーラム inSUWA
「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」

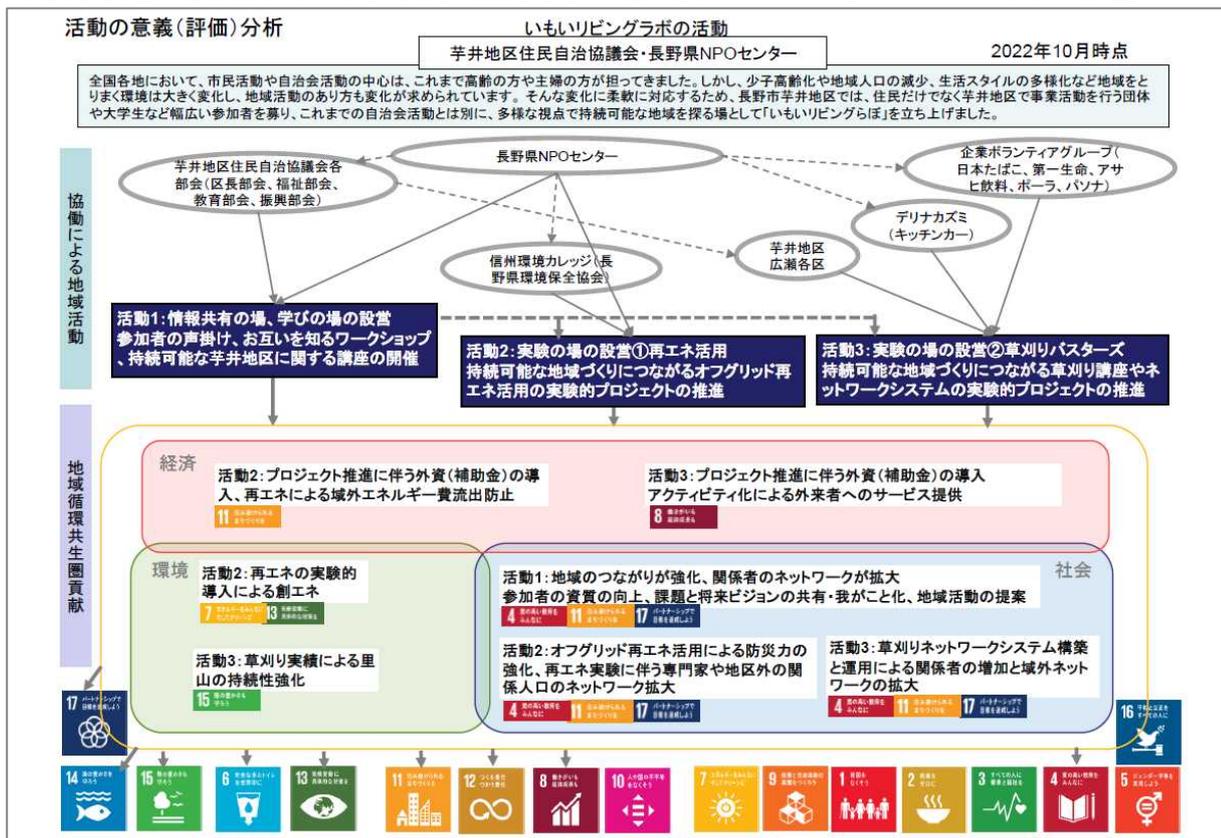
②ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー
「SDGs17ゴールの紐づけの先へあなた・地域・社会の変容に向けて」

③協働コーディネーターと連携した実践活動:信州ローカルSDGs勉強会
災害に強い地域づくりワークショップ

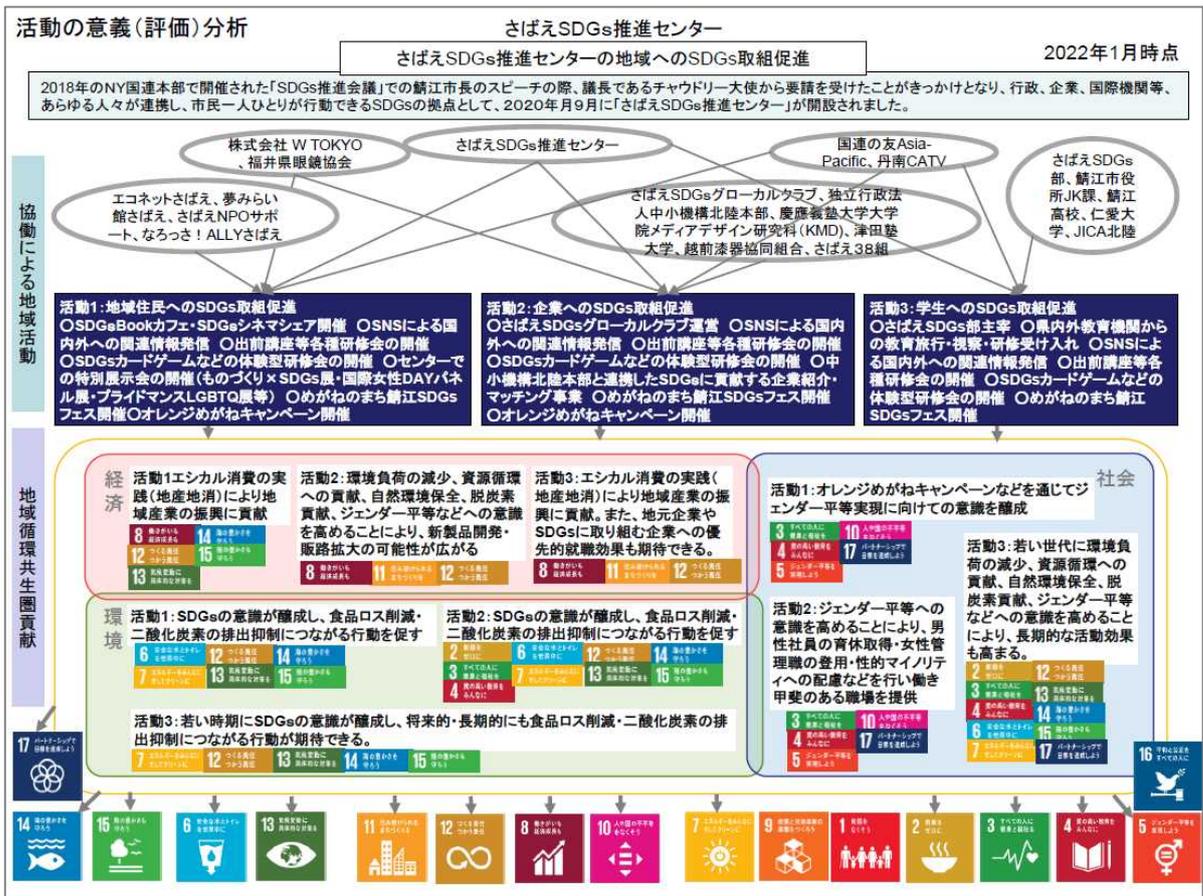
活動主体へのフィードバック(活動見える化プログラムの活用)

- EPO 中部が支援・連携した活動を対象に、独自ツール「活動見える化プログラム」の分析チャート図を作成し、関連イベントで解説するなどして活用した。

【作成した活動見える化チャート】長野県長野市芋井地区集落の事例「芋井リビングラボの取組」



【作成した活動見える化チャート】作成した SDGs 未来都市3自治体のうち
福井県鯖江市：さばえSDGs推進センターの地域へのSDGs取組促進



■ **地域循環共生圏の創造に資するための推進業務**

■ **地域プラットフォームの環境整備支援等業務**

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択団体への支援として、事業着手にあたってのヒアリング実施と、ヒアリング結果をもとにした支援計画シートの作成、各団体が主催するステークホルダーミーティングの実施支援などを行った。
- 11月に中部ブロックの中間共有会をEPO中部主催で開催し、中部の採択団体(3団体)、卒業団体(1団体)による取組状況等の報告会を行った。
- このほか、卒業団体の一つ「おわせSEAモデル協議会」を対象にしたフォローアップ調査を12月に実施し、その内容を取りまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

【新規団体を対象にした事業着手時ヒアリングの実施】

活動団体名	実施日/場所	ヒアリング項目
ローカルSDクリエーション(PF丹南)(福井県丹南地区)	2022年4月21日/しらやまいこい館(福井県越前市)	Q.1: 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは? Q.2: 地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージとは? Q.3: 今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか?
荒山林業(PF大町)(長野県大町市)	2022年4月19日/荒山林業(長野県大町市)	Q.4: 事業を進める上での資源や強みとは? Q.5: 事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは? Q.6: 事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは?

【活動団体主催ステークホルダーミーティングの実施支援】

活動団体名	実施日/場所・方法	EPOが実施した支援等
ななおSDGsスイッチ(PF七尾)	2022年9月22日/七尾商工会議所及びオンライン	● SDGs未来都市についての簡易な説明(資料作成・配布) ● 岐阜市(SDGs未来都市及びモデル事業に選定)による2021年度主催催事での取組発表動画の上映
荒山林業(PF大町)	2022年12月/白馬にて合宿形式で実施	(地域視察を行いつつ、地域資源の抽出ワーキングを実施) ※ 実施後に団体側が本会合をステークホルダーミーティングに位置づけた。
ローカルSDクリエーション(PF丹南)	2023年1月18日/赤坂みらい塾	● ディスカッション用の模造紙、カラーペン、付箋等のワークショップツールの準備 ● オブザーバー参加、ファシリテーション補助

PF団体支援：ななおSDGsスイッチ【PF七尾】の場合

- 2021年度にのど共栄信用金庫がPF事業の活動団体として採択され、2021年10月に産官学金9団体によるコンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」が発足。プラットフォームを構築、稼働させた。
- 2022年度も継続採択となった際に、採択団体をのど信金から「ななおSDGsスイッチ」に変更。



参画組織9団体

- (産) 七尾商工会議所、能登鹿北商工会、独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部
- (官) 七尾市
- (学) 国立大学法人金沢大学
- (金) のど共栄信用金庫、株式会社日本政策金融公庫金沢支店、東京海上日動火災保険株式会社
- (民) 一般社団法人七尾青年会議所



- EPO中部による支援として、PF団体事務局メンバーと定期的に打合せを行い、活動やプロジェクトの実施状況の確認・情報共有と共に、課題の見える化、SNSなどでの広報協力等を行っている。
- PF事業での各採択団体による実施必要事項となっている「SH(ステークホルダー)ミーティング」を、ななおSDGsスイッチは9月22日に実施。
- スイッチ及び七尾市がSDGs未来都市への申請を目指していることから、SHミーティングでは、団体側からの依頼によりEPO中部がSDGs未来都市の事例紹介と、最近の選定結果「総表」ポイントの紹介などを行った。

【中間共有会の開催】

区分	エリア	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	実施内容等
⑤PF事業中間共有会(中部ブロック会合)	(中部)会場: 長野県大田市	ハイブリッド	11月18日 ~ 19日	クローズド 22名	地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 中間共有会(中部ブロック会合)	<ul style="list-style-type: none"> PF事業採択団体(中部3団体)による取組の中間報告会として実施。 2日目には、開催地・大田市の団体の案内で、活動地の山林、SHの木工家の工房等を視察。

※ PF事業の各採択団体が取組状況について中間発表を行う「中間共有会」が、昨年度まで全国会合として開催されていたが、今年度からは各EPO主催の地方ブロック単位での開催に変更となった。

- 中部ブロック「中間共有会」は、PF活動団体・荒山林業の所在地である長野県大田市で11月18日に開催。
- PF3団体が11月時点の取組状況を発表したほか、課題や今後の展開についてディスカッションし、加藤義人委員、田辺委員に3団体それぞれにアドバイスや情報提供等をいただいた。
- また、翌19日は、荒山林業の活動地(林業地)や、SHの工芸家の工房などを視察するエクスカージョンを実施。

地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 中間共有会(中部ブロック会合)	
実施内容(プログラム)	
13:30	1. はじめに(15分) ご挨拶 あらためて「地域循環共生圏」について
13:45	2. 活動団体の取組発表(60分+20分×3) ①【PF七尾】ななおSDGsスイッチ ②【PF丹南】合同会社ローカルSDクリエイション ③【PF大町】荒山林業
14:45	3. 先輩団体による取組紹介と活動団体へのエール(20分) 【PF小布施】スマート・テロワール協会 勝亦達夫氏(信州大学キャリア教育・サポートセンター講師)
15:05	4. 休憩&交流 フリータイム(40分)
15:25	5. ディスカッション(40分)
16:15	6. 本日の講評・感想など(10分) ●一般財団法人CSO ネットワーク事務局長 長谷川雅子氏 ●岐阜大学工学部客員教授 加藤義人氏 ●NPO法人まちづくりスポーツ専務理事 田辺友也氏
16:25	7. 事務局からの連絡
16:30	8. 閉会



■ 森里川海生態系ネットワーク形成会合の開催

区分	会合	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	備考
森里川海生態系ネットワーク形成会合	OECM情報交換会	zoom	11月8日	クローズド 55件	OECMに関する情報交換会	<ul style="list-style-type: none"> 主に自治体を対象にした OECM、及び「自然共生サイト(仮)」の情報共有を目的にした会合。 県による関連制度等の紹介と意見交換を実施。
	OECMフォーラム	zoom・YouTube	1月25日	zoom 62件 YouTube 206件	生物多様性主流化フォーラム in 中部「OECMを通じた企業の生物多様性保全活動」	<ul style="list-style-type: none"> 参加者一般公募のフォーラムを開催。 試行サイト企業3社による取組紹介等のほか、参加者からの質問を交えたトークセッションを実施。

- 11月8日に中部の自治体を対象にした「OECMに関する情報交換会」(※クローズド会合)をzoom開催し、県から市町村へも参加呼びかけを行った結果、計63件の出席者があった。
- 2回目の会合企画として、参加者を一般公募し、OECMの普及啓発と情報共有を目的にしたフォーラムを1月25日に開催。
- COP15閉幕の(報道がされていた)タイミングで本格的な参加募集広報を展開できたため、当初設定のzoom定員80名を超過することが予想され、急遽YouTubeライブ配信による視聴参加も募集することになり、多数の企業等からの参加申込があった。
- 参加者数等: 268件 (zoom62件、YouTubeライブ配信視聴(ユニーク数)206件)。

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

区分	会合	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	備考
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	三重県尾鷲市会合	リアル	1月20日	企業63社 参加者128名	令和4年度 おわせ SEA モデル説明交流会 「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」	● PF事業卒業団体支援を目的とした団体と企業・金融機関の交流・マッチングの場として企画。
	福井県丹南地区会合	リアル	2月7日	クローズド 11名	丹南エリアにおける里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会	● 地域活動団体と金融・経済団体を交えた情報交換会を企画。 ● 会場: 地域活動者が営業する古民家レストラン。 ● PF 団体、地域活動者、日本政策金融公庫、武生商工会議所関係者等が参加。
	東海セミナー	webex・YouTube	3月6日	webex61件 YouTube 55件	地域脱炭素の実現に向けた金融機関向けセミナー	● 財務局、経産局、中部地方環境事務所、EPO 中部主催の脱炭素セミナー。
	信州セミナー	webex・YouTube	3月14日	webex22件 YouTube 62件	地域脱炭素の実現に向けた金融機関・事業者向けセミナー	● 金融機関、企業が登壇し、脱炭素経営と地域づくりをテーマにしたディスカッション等を実施。

- 三重県尾鷲市で、令和4年度おわせ SEA モデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」を1月20日に開催。
- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の2019-2020採択団体・おわせSEAモデル協議会との連携開催。協議会関連プロジェクトと企業・金融機関等とのマッチングの機会設営を目的に開催を企画。
- 参加者数等: 企業・金融機関等63社、参加者数128名。

プログラム 1/2

1. ごあいさつ
 - 尾鷲市長 加藤千速
 - 環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長 佐々木真二郎
2. おわせSEAプロジェクトについて (15分)
 - 尾鷲市政策調整課 調整監 渡田一多朗
3. 協力機関からの応援メッセージ (10分)
 - 財務省 東海財務局 津財務事務所長 齋藤 崇 氏
 - 国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所長 日置 幸司 氏

プログラム 2/2

4. プロジェクト・セッション (各プロジェクト5分)
 - セッションの進め方 説明: EPO中部
 - ① 尾鷲音色の森キャンプ場(仮)について
 - 株式会社イニティ52代表取締役 浜野 五十二 氏
 - ② 親子3世代が憩う総合公園整備について
 - 尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
 - ③ 環境にやさしい陸上養殖について
 - 尾鷲商工会議所プロジェクト室長 山本 浩之 氏
 - ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について
 - 速水林業 代表 速水 亨 氏
 - 質疑応答 (60分) 進行: EPO中部
5. フリートークタイム (プロジェクト担当者との情報交換)
6. 閉会 (16:30予定)

■ 地域循環共生圏の担い手（団体等）との関係構築

- 地域での地域循環共生圏に通じる担い手を把握し、関係性を構築することを目的にヒアリングを実施し、情報提供等も行った。

対象団体	一般社団法人日本環境 NPO ネットワーク（Jens-Net）
実施日・方法	2023年2月9日に、Jens-Net 5名と EPO で情報交換を実施

■ 中部地方 ESD 活動支援センター業務

■ 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進

- 前年度策定の中部地域の「第6期 ESD 推進計画」をもとに、中部地方 ESD 活動支援センターの業務内容等を検討し、業務実施計画に反映した。

■ ESD 活動に関するネットワークの構築

区分	エリア	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	備考
① ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム	(中部)	ハイブリッド	12月5日	クローズド会場 13人 zoom13件	中部の地域 ESD 拠点の活動情報共有と意見交換(クローズド開催)	<ul style="list-style-type: none"> ESD の背景 講師:大鹿聖公先生(愛教大) コーディネーター:古澤礼太先生(中部大) ESD 推進ネットワーク、EPO 中部、中部 ESDC 活動内容の紹介
② SDGs 学生サミット	(中部)	オンライン	2月4日	学生等(zoom)76件 YouTube 視聴 40件	ユースに対する SDGs 活動交流を通じた ESD の場の設営	<ul style="list-style-type: none"> SDGs 関連活動に取り組む大学生チーム(7大学) 基礎自治体、NPO 等との SDGs 取組とのコラボ
③ 自然資産を活かした ESD ダイアログ	福井県 勝山市	ハイブリッド	11月26日-27日	会場 42人 YouTube11件	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022~自然資産を教材とした SDGs 教育とは(オープン)	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークがホスト役で開催 第 12 回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会の成果を受け議論 中部エリアのジオパーク関係団体、地元 ESD 関係者 コメンテーター:水谷瑞希先生(信州大学)



②SDGs学生サミット



③恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022~自然資産を教材とした SDGs 教育とは

■ 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

区分	エリア	設営	開催日	参加者	催事名称/テーマ	備考
学び合いの場①	(中部)	オンライン	8月25日	zoom60件	気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える	<ul style="list-style-type: none"> 気候危機の科学とリスク・社会を変えるには:江守 正多先生(東京大学、国立環境研究所) 脱炭素社会を見えるものに~市民目線のまちづくり~:木原浩貴先生(総合地球環境学研究所)
学び合いの場②	(中部)	オンライン	9月1日	zoom61件	気候危機問題から SDGs 地域づくり・人づくりを考える	<ul style="list-style-type: none"> 気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す:杉山範子先生(名古屋大) 気候危機ひとづくりまちづくりに関わる話題提供:福井県大野市くらし環境部環境・水循環課、坂井市総合政策部まちづくり推進課
実践活動	福井県 大野市	ハイブリッド	11月25日	会場 30人 zoom21件	脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動ワークショップ体験①「ミステリー」 気候変動ワークショップ体験②「ジグソー」 ディスカッション(体験内容を普及させていくために) ファシリテーター:水上聡子氏(アルマス・バイオコスモス研究所) 総括:佐藤真久先生(東京都市大)

区分	エリア	設営	開催日	催事名称/テーマ	備考
SDGs 社会教育研究ワーキング	会場: ①富山市 ②福井市 ③EPO	リアル	①6月21日	学び合いプロジェクト検討、評価 ワークブック試行版内容検討 クローズ開催	■ 中部大・古澤先生、PEC とやま・塚氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上氏※2021年度メンバーと同じ ■ 3回目ゲストアドバイザー 佐藤真久先生(東京都市大)
			②9月26日		
			③12月20日		



学び合いの場①(8月開催時)
気候危機に立ち向かう地域や市民の
ありかたを考える



実践活動
脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ



SDGs 社会教育研究ワーキング①
(6月開催時)

「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版) の作成

- 中部地方ローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版)を、昨年度作成したワークブック(プロトタイプ版)の改訂原稿をもとに作成した。

<p>環境省 ESD推進ネットワーク 令和4年度学びあいプロジェクト 令和4年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務</p> <p style="text-align: center;">試行版(事務局案)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック</p> <p>企業研修／生涯学習／地域づくり SDGs社会教育・学び合いヒント</p> </div> <p style="text-align: center;">中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会 2023年3月</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目次</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になりたいか 実践方法を考える～中部地方の実例から① 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から② 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③ <ol style="list-style-type: none"> 海岸ごみからSDGsを考える 気候変動教育をまちづくりに活かす 実践効果をどう考えるか </div>	<p style="text-align: center; background-color: #e0ffe0;">2. 「SDGs社会教育」が目指すもの～学び合いの場づくり</p> <p>「SDGs社会教育」を行うということはどういうことでしょうか。端的に言えば学習の場を作ることと考えられます。そこにはコーディネーター「場を作る側」と参加者「場に参加する側」がいます。そして地域課題に取り組むための「学び合い」が行われることによって人づくりが促進されると考えました。つまり、地域社会でのESDは人づくりであると同時に地域づくりでもあり、また協働による「学び合い」がESDを促進します。その「学び合い」の結果として、「場を作る側」も「場に参加する側」も、持続可能な地域を担う「ひとのビジョン」(なりたい人)に近づいていくと考えられます。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">地域社会でのESDは人づくりであり地域づくりでもある 協働による「学び合い」はESDを促進する</p>
--	---

教育現場の実態把握と連携強化

- SDGs の取組と ESD 実践の専門家、推進を目指す教育現場関係者にヒアリングを実施し、連携強化と情報収集を行った。

調査対象		ESD の現状の課題について (抜粋)
専 門 家	大鹿聖公氏 愛知教育大学 理科教育講座 教授	<p>○ESD・SDGs の取組の今後の支援や期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 例えば教員研修で「ESD ってなに」研修を行うことは考えられるが、おそらく教員は忙しくて参加しないだろう。 ● 各自治体の教育長、教育委員会の委員の方がいる意味で「ESD 研修」の意義があるかもしれない。地域づくりに ESD は不可欠と認識してもらえば、教育現場に意見できる立場なので。
教 員 等	田開寛太郎氏 松本大学大学院 総合経営研 究科/総合経営学部 観光ホ スピタリティ学科 専任講師	<p>○ESD・SDGs の取組の今後の支援や期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立教大学の遠山地区での社会教育分野の ESD 支援は地域づくりについて大きな貢献をしている。例えば飯田市、飯田信金、長野県地域振興局では、地域づくりについて SDGs を鍵にして推進するための環境文化都市づくり プラットフォーム事業「うごくる」を来年度から立ち上げると聞いている。こうした ESD 的な社会教育支援が広がるとよい。 ● 学生活動への支援があるといい。学生自身がやりたいことを地域に入り込んで活動できるような支援体制があるといいのではないかと。
	愛知県東浦町立緒川小学校 (全校的に ESD に取り組んでい るユネスコスクール認定の小 学校)	<p>○ESD/SDGs の取組の今後の支援や期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当校でも大学生や地域の方に来てもらっているが、環境ボランティアの出張授業などの支援があればありがたい。 ● SDGs は 2030 年までなので、それ以降の社会を示す目標が必要。子どもサミットなどで現場から目標を作る活動などがあってもよいのではないかと。

ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO 業務、ESD 業務、及び地域循環共生圏業務で連携等した関係主体に簡易ヒアリングを実施し、イベント業務等の各業務における成果として、関係者・登壇者等の行動変容について把握する調査を実施した。

業務	2023年1月20日開催・令和4年度 おわせ SEA モデル説明交流会 企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカル SDGs 実現に向けて
対象	おわせ SEA モデル協議会 事務局(尾鷲市政策調整課内)
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 財務省、国交省のほか、県と市の全ての関係部署からの参加があり、非常に有意義な会合となった。 説明交流会では、おわせ SEA モデルによる発電所の跡地活用のみではなく、港湾活用、ゼロカーボンシティに関わる市の取組も紹介した。 説明交流会の場ですぐに新しいプロジェクトが生まれるわけではないが、地域の企業と企業が交流することで、新しい企業間のつながりが生まれ、後に市の地域活性化へとつながる事業が今回の交流会を一つのきっかけにして創出されていけばと期待をしている。
業務	2022年11月25日開催・気候変動社会教育実践セミナー
対象	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま) 事務局長塚氏 (当日のワークショップサポートの一人として助言及びファシリテーターを担当)
内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップが「俯瞰的」、「合理性」を重視したものであり、システム思考教育に有効なことがよくわかった。一般の参加者も図を作りながら「なるほどね」と発言するなど、知らず知らずのうちに芽づる式に「つながり」の気づきがあったと思われる。 表層的、マニュアル的、メニュー的な行動に陥るのではなく、こうしたシステム思考による理解と行動が SDGs、気候変動には不可欠だと感じた。 富山ユネスコ協会が「気候変動教育」に興味を示しており、何らかの形で連携した取組を推進したいと考えている。

(ほか4件/計6件のヒアリングを実施)

地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

- ローカル SDGs 実践状況等の評価指標ツールの作成業務として、昨年度から EPO 中部では「SDGs 指標物語」の構築に取り組んでいる。
- 「SDGs 指標物語」構築にあたっては、既存の評価メニュー、プログラム等の事例・情報の収集を行った。
- また、今年度は試行的に2事例で実践活用を行った。

SDGs指標物語 選定した活動指標のSDGsに対して持つ意味を説明

(例) 活動2 実験の場の設営①再エネ活用
【選定指標】再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)

地域のSDGsの取組
【活動2：実験の場の設営①再エネ活用】

環境貢献

- 貢献**
 - SD状況 再エネ実験サイトの設営
 - 影響 海洋生物の生息場や産卵床の創出
 - 好転内容 里海生物の生息域増加
- 阻害**
 - unSD状況 プロジェクト推進による負荷の増加
 - 影響 人員確保の困難性
 - 悪化内容 地域社会への人的負荷

Local SDGs指標
再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)
再エネ実験の地域社会での共有、クリーンエネルギー活用実績

SDGsの体系

防災、温暖化対策に貢献する再エネ実験共有者の増加

ターゲット

- 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
- 7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

グローバル指標

- 7.2.1 最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率

再エネ実験によるクリーンエネルギー活用実績の増加

SDGs指標物語

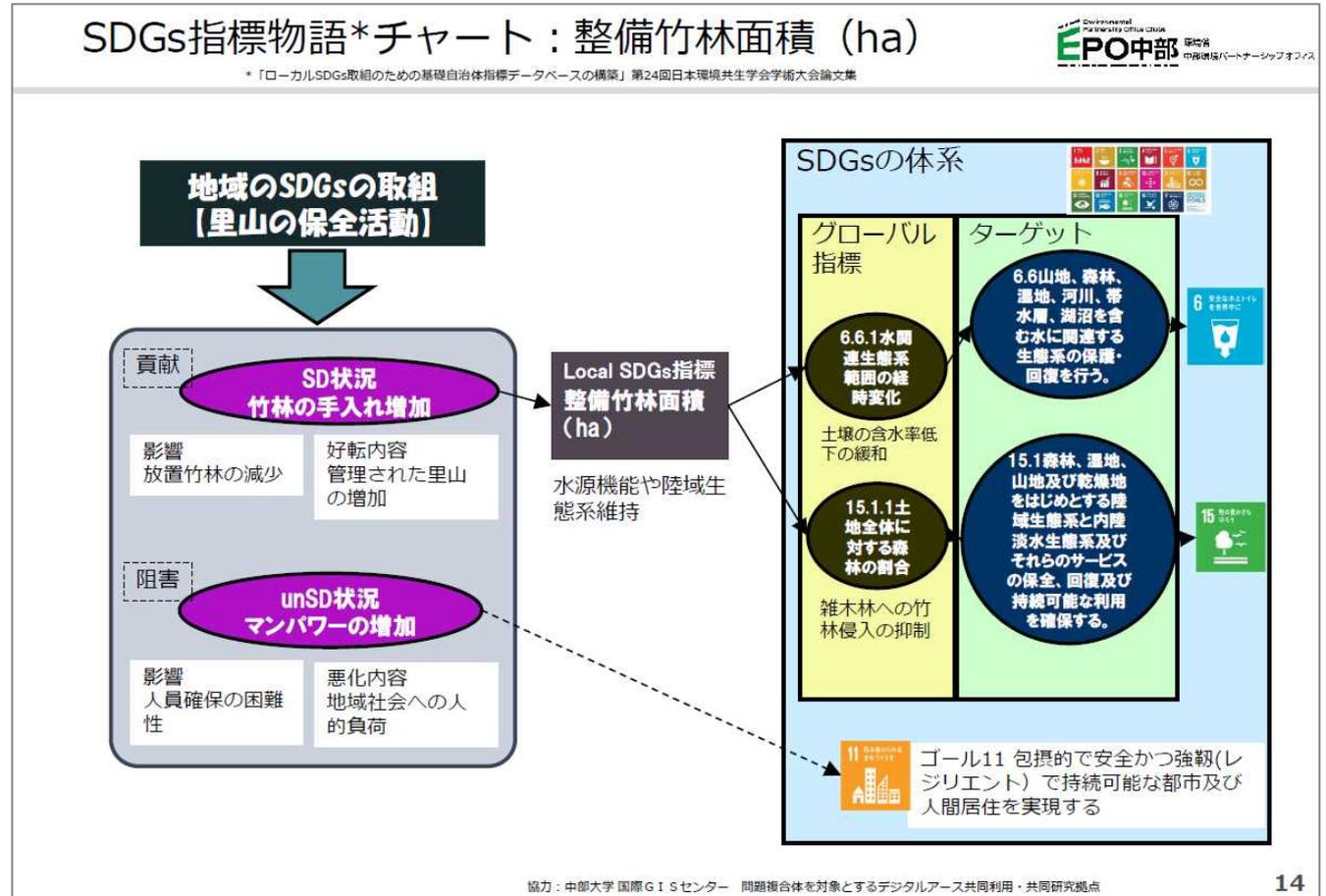
- ゴール11 住み続けられるまちづくりを
- ゴール13 気候変動に具体的な対策を
- ゴール7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

SDGs指標物語については論文「地域活動推進のためのSDGs指標物語」が日本環境共生学会誌「環境共生」vol. 39審査付研究論文集に掲載予定

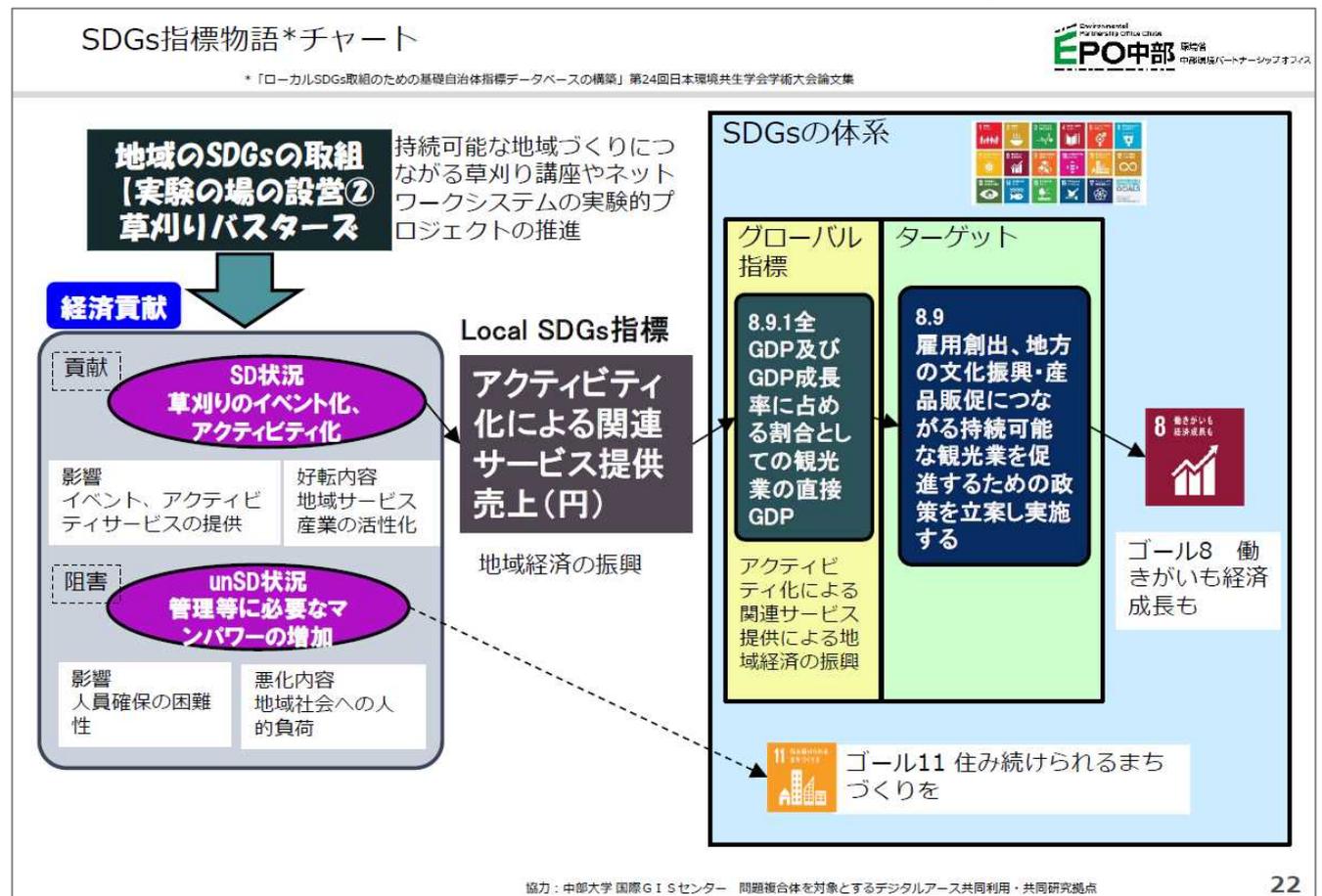
協力：中部大学 国際GISセンター 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

試行的な実践事例（2事例）

事例①：合同会社ローカルSDクリエイション（PF 丹南）による里山保全活動



事例②：芋井地区住民自治協議会（長野県長野市）による「いもいリビングらぼ」の取組



関係主体との連携及び協働に関する業務

中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを毎月(計 12 回)実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

中部地方環境事務所が主催する外部評価委員会への対応

- 中部地方環境事務所が2月 28 日に実施した外部評価委員会に出席し、作成資料の説明等を行った。

【外部評価委員会に提示した 2022 年度 EPO 中部業務の説明資料 (2023 年 1 月末時点作成)】

<p>環境省 中部地方環境事務所 第 6 期・EPO中部/ 中部地方ESD活動支援センター 2022年度の業務報告</p> <p>2023年2月28日</p>	<p>第6期・EPO中部 中部地方ESD活動支援センター 2022年度の業務報告</p>	<p>主催イベント・会合等の開催・運営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EPO中部主催イベント・会合 2. ESDセンター主催イベント・会合 <p>地域循環共生圏づくりの支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 地域循環共生圏づくりの支援(主な実施内容) 4. 具体的な支援対象: PF団体や連携団体 <p>独自ツール等の作成・活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. EPO中部ウェブサイトの充実化 6. 活動見える化プログラムの事例追加 7. SDGs指標物語の構築 8. SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成 <p>相談対応等の基本業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 相談問合せ件数と対応状況 10. ウェブサイトの更新状況とアクセス数
--	---	--

環境白書を読む会への企画協力

- 中部地方環境事務所、なごや環境大学及び EPO 中部主催による「環境白書を読む会」を9月 13 日にオンライン開催し、EPO 中部は広報展開などの支援を行ったほか、当日の司会進行を行った。

全国ユース環境活動発表大会への参加

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステイナビリティ高等研究所)が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会の審査委員として、EPO 中部からはESD/EPO 運営委員である水上聡子氏を推薦した。
- 12月 11日開催の中部大会には、EPO 中部スタッフもオブザーバー参加した。

記者発表等のメディア対応

- 11月 23日開催・地域循環共生圏フォーラム in SUWA「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」では、地元新聞社2社が取材参加し、記者からの質問対応等を行った。

①地域循環共生圏フォーラム

- 長野県諏訪市で開催した地域循環共生圏フォーラムinSUWAで、諏訪地域の「なりたい地域の未来像づくり」ワークショップを実施。
- 参加者数等:会場参加37名、YouTubeライブ配信視聴(ユニーク数)21件。
- 自サイト等への開催報告掲載・投稿:
<https://www.epo-chubu.jp/e-po-news/17859.html>

長野日報2022年11月24日記事
(※記事の続きあり)
<http://www.nagano-np.co.jp/articles/101881>

- 11月25日開催・地域づくりのための気候変動社会教育実践セミナー「脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ」、11月26日開催・恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022「自然資産を教材とした SDGs 教育とは」にも地元新聞社の参加があり、取材対応を行った。

SDGs社会教育実践セミナーの開催

- 地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。
- ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
 ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
 総括 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究所 教授
 開催場所：福井県大野市 結とびあ（多田記念大野有終会館）
 開催方法：現地開催、オンライン中継
 開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

※ワークショップで用いる教材の著作権は、福井県および大野市に属しています。

**① 24枚のカードを使った
ミステリーワークショップ**

福井県版気候変動ミステリーワークショップでは...
 24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

**② ジグソー法による
課題解決ワークショップ**

課題解決ワークショップでは...
 福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。



11

自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ<ジオパークESDダイアログ>

ダイアログ参加53人、エクスカージョン参加16人

ユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園、世界遺産、世界農業遺産など自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催する。地域資源の管理者や関係者、興味のある教育関係者に参加を呼びかけ、自然資産の実情と課題を認識しつつ、ESD活用のありかたについて意見交換することを目的とする。





	国立公園	世界自然遺産	ユネスコ エコパーク (生物圏保存地域、 生物圏保護区)	ジオパーク
国内数 (全世界数)	34 (約7,000)	5 (218)	10 (738)	世界ジオパーク (177) 日本ジオパーク 46
意義	風景地の保護と利用の増進により国民の健康・休養・教育に資すると共に生物多様性の確保	人類が共有すべき貴重な普遍的価値を有する不動産を保護するための国際協力や協力体制の確立	生態系の保全と持続可能な土地利用の調和、自然と人間の共生	地質遺産を保護するとともに、教育や研究・リソース等に活用し、地域の持続可能な開発に寄与
ゾーニング	特別保護地区 特別地域 普通地域	コアゾーン バッファゾーン	核心地域 緩衝地域 移行地域	—
管理運営	管理者 (協議体管理運営)	国、都道府県	自治体、民間など広範な参画	—
保全の担保	自然公園法	国内法令(自然公園法、文化財保護法、条例など)	—	—

それぞれの枠組みの概要 ※データは2022年6月現在



全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった全ての会議・イベント等(オンライン含む)に出席した。

令和4（2022）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書<概要版>

発行：環境省中部地方環境事務所
 作成：中部環境パートナーシップオフィス
 （運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

（2023年3月）

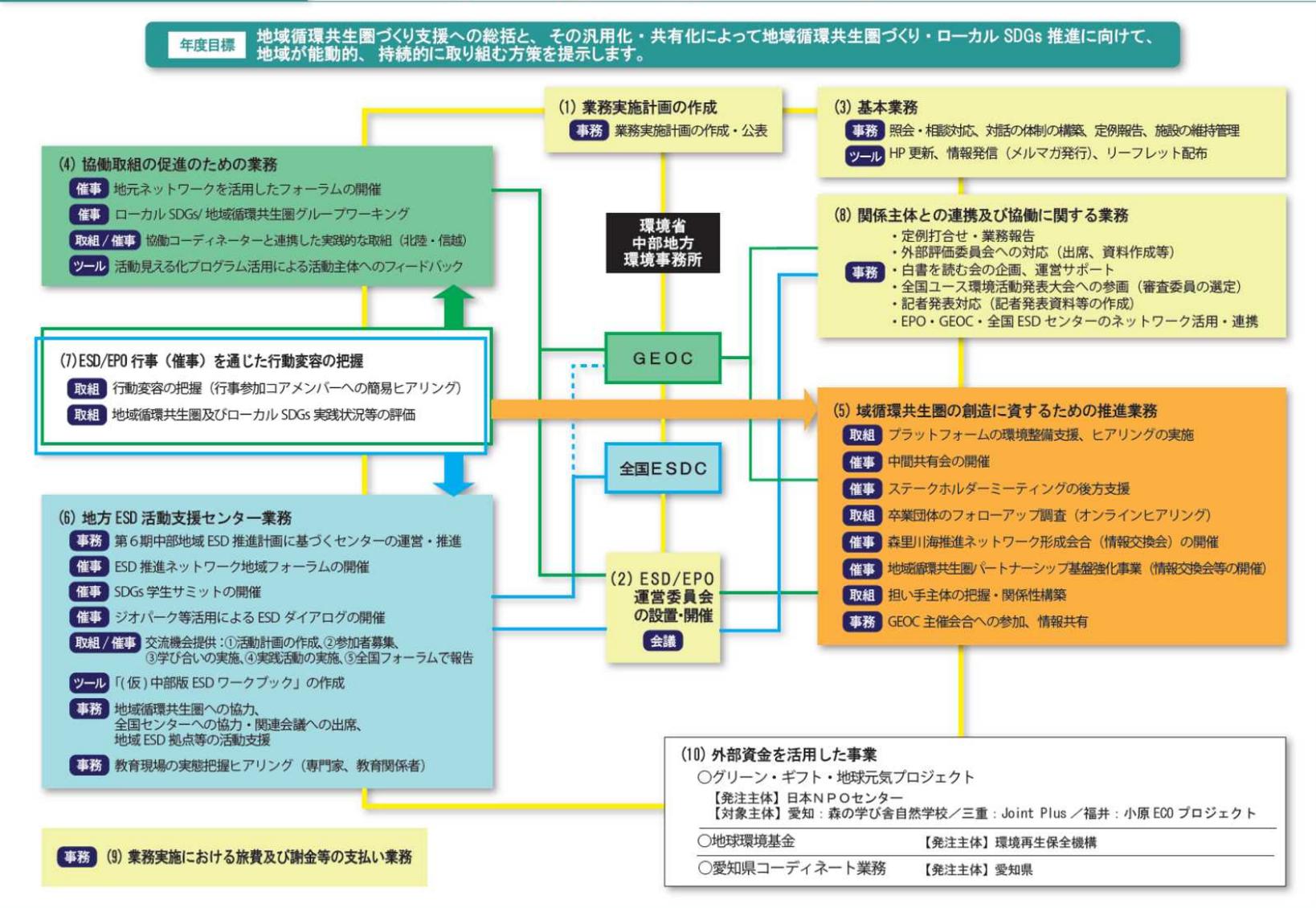
【参考】2022 年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運営業務 令和4年度(2022年度)業務一覧

EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター

緑色：EPO 業務 / 水色：ESD 業務 / 赤色：地域循環共生圏業務 / 黄色：運営業務

※中部地方環境事務所、EPO は業務全体に関わる



第6期 目標
 アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて、新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組めます。